

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
 担当課長名：服部 卓也

事業名 連続立体交差事業 はんしんでんてつほんせん すみよしえきひがしかた あしやしきょう 阪神電鉄本線（住吉駅東方～芦屋市境）	事業区分 連続立体交差	事業主体 神戸市			
起終点 自：兵庫県神戸市東灘区住吉宮町1丁目 ひがしなだくすみよしみやまち 至：兵庫県神戸市東灘区深江北町1丁目 ひがしなだくふかえきたまち		延長 3.9km			
事業概要 本事業は阪神電鉄本線の住吉駅東方～芦屋市境の約3.9kmにおいて鉄道を高架化することにより、11箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。					
H4年度事業化		S58年度都市計画決定	H4年度用地着手	H9年度工事着手	
全体事業費	約681億円	事業進捗率	98%	供用済延長	0.8km
計画交通量	279,719台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C （事業全体） 1.3 （残事業） 1.4	総費用 （残事業）/（事業全体） 18/1,126億円 事業費：18/1,125億円 維持管理費：0.5/0.6億円	総便益 （残事業）/（事業全体） 26/1,441億円 移動時間短縮便益：-0.6/1,318億円 走行経費減少便益：0.9/61億円 交通事故減少便益：25/62億円	基準年 令和5年	
感度分析の結果 （事業全体）交通量：B/C=1.49～4.60（交通量±10%） 事業費：B/C=1.16～1.42（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.13～1.36（事業期間±20%） （残事業）交通量：B/C=1.12～11.42（交通量±10%） 事業費：B/C=1.27～1.54（事業費±10%） 事業期間：B/C=0.14～3.52（事業期間+20%）					
事業の効果等 ①鉄道の高架化（踏切除却）に伴う交通渋滞の解消による交通の円滑化と踏切事故の解消 ②交差道路の整備による地域防災力の向上と市街地の分断解消 ③歩道整備による歩行者の安全性確保と沿線周辺の交通円滑化 ④高架下利用によるまちの活性化 ⑤駅舎の更新による美化およびバリアフリー化 ⑥無電柱化による都市災害の防止や都市景観の向上等					
関係する地方公共団体等の意見 令和元年度に全線高架化が完了し、既に事業効果が現れていることから、周辺住民の期待も高まっている。					
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 全線高架化が完了し、11箇所の踏切が除却された。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率98% 残事業の内容 関連道路整備					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 令和7年度の完了を目指し、関連道路整備の工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等 今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。					
対応方針 事業継続					
対応方針決定の理由 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

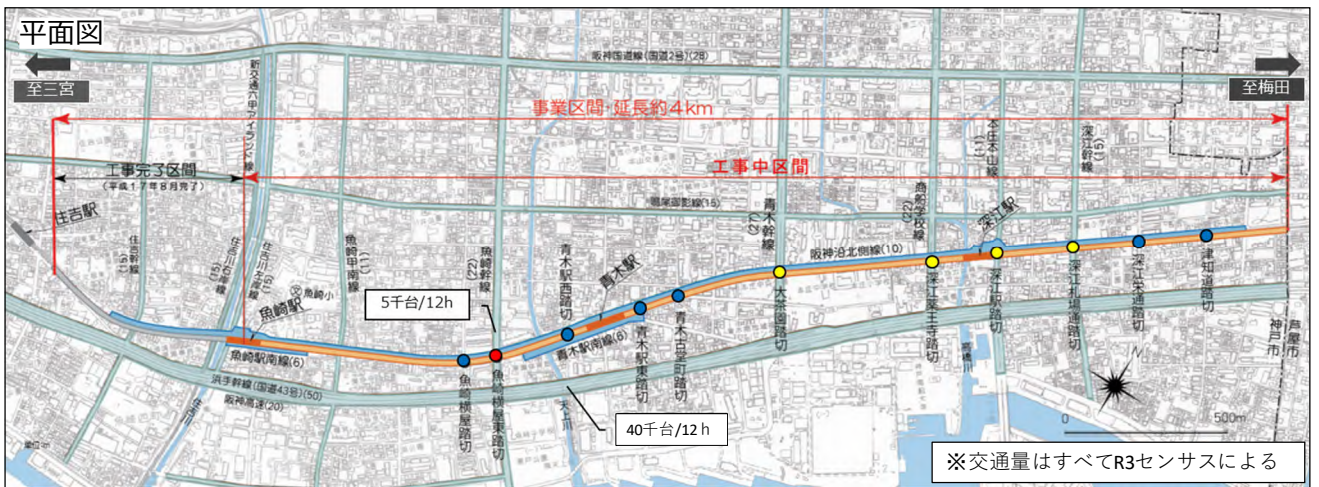
事業概要図

位置図



神戸国際港都建設計画都市高速鉄道
第7号線東部浜手線連続立体交差事業

平面図



凡例		
●	開かずの踏切	1箇所
●	ボトルネック踏切	4箇所
●	その他の踏切	6箇所

- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。